

## (シラバス No.2) (基盤科目)

科目名	専門職者としての倫理規範 Code of Ethics as a professional person	単位数	2単位	科目コード	M2-1
		形態	必修		M2-2
		担当教員	大野 精一	教職	-
<b>【授業概要】</b>					
<p>倫理規範とは各専門職者の中で倫理が規範化して実効的な役割を果たさなければ現実的には意味がない。本授業では倫理規範を「知る」ばかりでなく、各自が納得して自分なりに「わかり」、さらにそれが今後の各自の教育実践に具体的実際的かつ創造的に「生かされる(活かされる)」ようにするために、具体的な状況やケース等に即して受講者の発表や双方向の議論等を進める。授業の展開としては、Donald A. Schön や Max Weber 等を参考に専門職者性とはどのようなことか、そこで展開される倫理規範の意味・意義・価値について考える。さらに大学教授や保育士、公認心理師、臨床心理学や法曹、ケアやジャーナリズム等の各種職域での倫理規範を比較検討する。そしてこの授業を通して受講者各自が教育において倫理規範の実践指針化をはかるヒントを得られるようにする。</p>					
<b>【授業の到達目標】</b>					
<p>本授業では、教育において専門職(者)とは何か、専門職(者)において何故に倫理規範(法規範や道徳規範等ではなく)が課題になるのか、そして倫理規範が教育の実践にどのようにかかわるのかを実践的に理解することを目標としている。そのために専門職性に注目して職業における倫理の意味・意義や、各種職域における倫理規範の具体的な展開と対比して教育における専門職(者)の倫理規範はどのように構成されるのかを具体的に把握できるようにする。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 専門職者をめぐる用語の整理—スペシャリスト、エキスパート、プロフェッショナル</li> <li>3. ショーンに学ぶ専門職者像(1)専門職(者)の危機</li> <li>4. ショーンに学ぶ専門職者像(2)古典的専門職者と新しい専門職者</li> <li>5. ショーンに学ぶ専門職者像(3)教育の専門職者性とは</li> <li>6. マックス・ヴェーバーにおける職業倫理(1)エートス論</li> <li>7. マックス・ヴェーバーにおける職業倫理(2)心情倫理と責任倫理</li> <li>8. 教育における倫理規範(1)大学教授の職業倫理との比較で考える</li> <li>9. 教育における倫理規範(2)保育士倫理との比較で考える</li> <li>10. 教育における倫理規範(3)公認心理師や臨床心理学における倫理との比較で考える</li> <li>11. 教育における倫理規範(4)法曹倫理との比較で考える</li> <li>12. 教育における倫理規範(5)ケアやジャーナリズム等における倫理との比較で考える</li> <li>13. 倫理規範をめぐるケースの検討</li> <li>14. 教育における情報公開法制や著作権法等をめぐる法律上の諸課題</li> <li>15. 教育における倫理規範の実践化</li> </ol>					
<b>【評価方法】</b> 試験(50%)、課題発表・レポート提出(30%)、受講態度(質疑応答等の積極性など)(20%)で判定する。					
<b>【教科書】</b>					
<p>Donald A. Schön(1983) The Reflective Practitioner: How Professionals Think In Action. Basic Books , 374 pages  (ドナルド・A. ショーン著、柳沢 昌一・三輪 建二監訳『省察的実践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考』(鳳書房)  佐藤学『教師というアボリアー—反省的実践へ』(世織書房、1998)</p>					
<b>【参考図書】</b>					
<p>マックス・ヴェーバー(脇圭平訳)『職業としての政治』(岩波文庫、1980)  田中朋弘『職業の倫理学』(丸善出版、2002)  別府昭郎『大学教授の職業倫理』(東信堂、2005)  杉原厚吉『大学教授という仕事』(水曜社、2010)  マックス・ヴェーバー(尾高邦雄訳)『職業としての学問』(岩波文庫、1936)  柏女霊峰監修・全国保育士会編『改訂版全国保育士倫理綱領ガイドブック』(社会福祉法人・全国社会福祉協議会、2009)  Deborah G. Johnson(水谷雅彦・江口聡監訳)『コンピュータ倫理学』(オーム社出版局、2002)  ジョン・マツリア、ジョン・ホール(下山晴彦編訳)『専門職としての臨床心理士』(東京大学出版会、2003)  金沢吉展『臨床心理学の倫理をまなぶ』(東京大学出版会、2006)  高中正彦『法曹倫理講義』(株)民事法研究会、2005)  川本隆史編『ケアの社会倫理学—医療・看護・介護・教育をつなぐ』(有斐閣選書、2005)  藤田博司・我孫子利夫『ジャーナリズムの規範と倫理—信頼性を確保するために』(公益財団法人・新聞通信調査会、2014)  レイモンド S. ファイファー &amp; ラルフ P. フォースバーグ(高田一樹訳)『48 のケースで学ぶ職業倫理—意思決定の手法と実践』(センゲージ ラーニング株式会社、2014)</p>					